

東京解剖図鑑

街角Spot

お祭りの子供たち、誕生間近のおなかの子に話しかける母と幼い娘、人間を観察するような目のゴリラ。12坪のこぢんまりとした空間に、温かみのある写真が並ぶ。

このスペース、写真好きのおばあちゃんのために家族が協力してつくったギャラリー「そらま（空間）」＝新宿区高田馬場3ノ12ノ14、電03（3367）8566＝だ。

真新しいギャラリーで笑顔を見せるおばあちゃん、井坂君代さん

(78)＝写真中央＝が写真を趣味にしたのは20年前。母の看病を終え、第2の人生の生きがいにと始めた。そのうちコンテストでも入賞するようになり、海外へも撮影旅行に行く熱中ぶり。

そんな君代さんの悩みは、個展やグループ展を開く手ごころな場所がないこと。銀座、青山の一等地は1週間で70万～80万という料金の上、予約も数年先までいっぱい。公共の施設は年2回の抽選と狭き門だ。「予約と寿命とどっちが先かって冗談を言うぐらい大変なんです」と君代さんは苦笑する。

「じゃあ自分たちでつくろう」おばあちゃんの夢に、井坂家の7人家族が一致団結した。ちょう

写真ばあちゃん、 手作りギャラリー



ど自宅の一部を貸していた美容院が閉店し、次のテナントがなかなか決まらないときでもあった。

「シャッターが上がらないと街が暗くなる。ならば公共施設並みの料金でみんなが気軽に利用できる空間にしよう決めました」と息子の卓司さん・千尋さん夫婦。

初めてのギャラリー運営は、額装や照明、予約受け付けなど戸惑うことばかり。でも、絵画や陶芸など趣味の作品を発表できずに困っている人の気持ちは、よくわかる。「まずはスタートして試行錯誤です」と家族は声をそろえた。

個展の第1号は、もちろん君代さんの写真展だ。6月4日まで。

(文と写真、古瀬俊和)